

# 第1学年 SB 組保健体育科学習指導案（県教員総合研修センター研修講座用）

学 校 名 石川県立工業高等学校  
 指導者 職・氏名 教諭 生田 佳澄  
ピアサポーター 橋 典孝 氏

指導日時・教室 令和 6 年 11 月 20 日（水） 5 限目 教室名 1SB 教室  
 対象生徒・集団 SB 科 1 年（次）生 40 人（内訳 SB H 40 人）  
 科 目 名 保健（単位数 1）  
 使用教科書 現代高等保健体育（出版社名 大修館）

## 【自己の課題】

生徒と外部講師とのやりとりなど現場の中で柔軟に対応しながら、時間管理を課題とする。

1 単元（題材）名 （1）現代社会と健康（ウ）生活習慣病などの予防と回復

2 単元（題材）の目標

生活習慣病などの予防と回復について理解することができるようにする。

【知識・技能】

生活習慣病などの予防と回復に関する情報から課題を発見し、疾病等のリスク軽減、生活の質の向上、健康を支える環境作りなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。

【思考・判断・表現】

生活習慣病などの予防と回復について、自他の社会の健康の保持増進や回復、それを支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生活習慣病などのリスクを軽減し、予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診する必要であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。 ②がんには、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③生活習慣病などの予防と回復には、個人の取り組みとともに、健康診断やがん検診の普及、正しい情報の発信など社会的な対	①生活習慣病などの予防と回復について、それに関わる事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けるなど、自他や社会の課題を発見するとともに、習得した知識を基に、自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ②生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法とそれを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	①生活習慣病などの予防と回復について課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。

策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
------------------------------------	--	--

#### 4 単元（題材）の指導に当たって

##### （1）生徒観

1SBの生徒たちは、男子生徒40人である。全体的に元気があり、とても賑やかであるように見えるが、実際その中身は活発である生徒と控えめでおとなしくしている生徒に大きく分かれる。授業中は落ち着いて座席につき、しっかりと教師側の話を聞くことが出来る。授業の流れや扱う内容などを踏まえて真剣に話を聞くところ、活発に活動をするところの切り替えをすることが出来る。活動や話し合いの場面では、主体的に行動できるグループとそうでないグループが二極化する傾向にある。これまでの授業を通して生徒たちは、自身が新に学ぶ知識に対する関心がある。しかし習得した知識を用いて思考・判断し、新たに自身の意見や考えを生み出すことに対しては苦手意識を持っている。

事前のアンケートの結果によると、生徒たちはがんについて学ぶ必要性は感じており、小・中学校の既習事項に関して知識はある程度身につけていることがわかる。事前調査の「がんになっても生活の質を高めることができる」と言う項目に関して、否定的な意見が1/3以上という結果であった。生徒たちにとっては「がん＝死」というイメージが強いと思われる。

##### （2）教材観

がんは、日本人において2人に1人がかかるという病であるため比較的我々に身近な病と言えるが、そのイメージは多くの人々にとって「死」のワードが隣り合わせになっているような印象を覚える。がん患者は増加してきているが、現在では、早期発見による治療では9割、全体で見ても6割が治るとされており、社会復帰を果たす人や病を抱えながらも自分らしく生きる人も増えてきている。がんとともに生きる社会づくりのため、がん患者のことやその人が受けている治療等について理解し、誰もが暮らしやすい社会にしていく必要がある。また生活習慣とがんの関係を学ばせる今回のがん教育は、病に対する正しい知識を得るだけでなく、生徒たちに自他の健康と命の大切さに気付かせることのできる教材であると感じている。

##### （3）指導観

がんの予防や治療法について正しい知識を身につけることで、「がん＝死」ではないということを理解させたい。患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアの重要性について理解し、自身の健康の保持増進に活かすことができるようにしたい。事前のアンケート結果では、生徒の中にがん罹患してから生活の質を高めることができないと感じている人もいることがわかっている。本単元では生活習慣病やがんについて学び、外部講師の方をお招きし、実際にがん罹患した経験談やその後の生活についての実態を知り、がんとともに生きていくことについて考え、正しい知識の獲得だけでなく、自他の健康や命の大切さに気づき自己の現在の生き方に結びつけて、がんとともに生きていく社会づくりを目指す態度を養いたい。

#### 5 単元（題材）の指導と評価の計画（4時間）

次 (時数)	主な学習活動	知識	思 判 表	態 度	評価の方法
一 (1)	○生活習慣病の予防と回復 ・生活習慣病の種類と要因について調べ、グループで共有し発表する。 ・調べた生活習慣病の予防法を調べ、グループで共有し発表する。	①		①	・フォームによる知識の確認

<p>二 (1)</p>	<p>○がんの原因と予防</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんとはどんな病か、原因が何かを学習する。</li> <li>・がんの予防のために必要なことを調べ、共有する。</li> <li>・石川県のがん検診受診率を調べ、受診率が低い原因と向上させる手立てを考える。</li> </ul>	<p>②</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォームによる知識の確認</li> <li>・ワークシートの記入状況</li> </ul>
<p>三 (1)</p>	<p>「本時」</p> <p>○がんの治療と回復</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんになっても生活の質を高めることは可能かどうか自身の意見を考える。</li> <li>・外部講師の話を聞いて、がん患者の実態を知る。</li> <li>・がんの治療法や緩和ケアについてまとめる。</li> <li>・外部講師の方の考えや意見を聞いて、もう一度がん患者の生活の質について自身の意見や考えをまとめる。</li> </ul>		<p>①</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの記入内容</li> <li>・発言、観察</li> </ul>
<p>四 (1)</p>	<p>○がんの社会的対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの社会的対策についてどんなものがあるか調べる。</li> <li>・本単元で学んできたことや考えたことを用いて、がん患者や病への理解と共生のためにどのようなことが大切かをまとめる。</li> </ul>	<p>①</p>	<p>②</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォームによる知識の確認</li> <li>・ワークシートの記入状況</li> </ul>

6 本時の学習（第三次1時）

(1) 本時のねらい

がんと向き合う人々に関わりを通じて、自他の健康の大切さに気付き自己の在り方や生き方を見つめ、自身の意見や考えを説明できる。 【思考・判断・表現】

(2) 準備・資料等

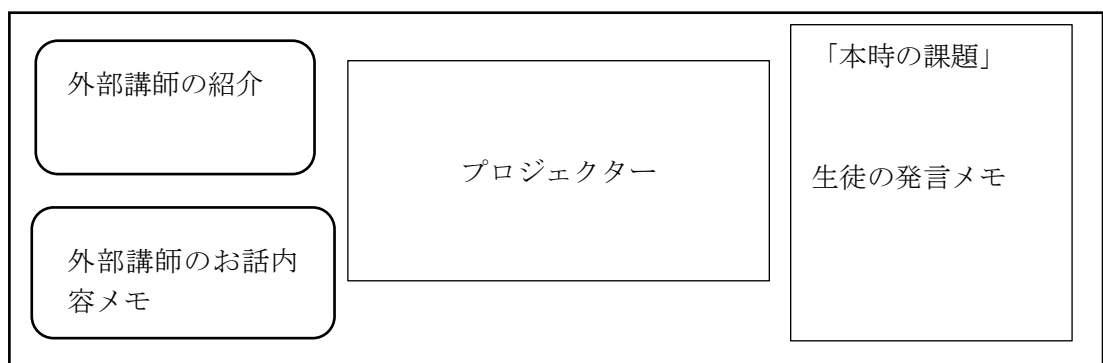
Chromebook、ワークシート、スライド、外部講師の招待

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】（評価方法）
3分	1 外部講師の紹介、既習事項の確認	・前時の既習事項の確認をする。 ・クラスでのがんに対する率直なイメージを共有する。	・外部講師の紹介	
7分	2 PPK, NNKの考えを知る。 グループ活動で意見の共有。	・PPK（ピンピンコロリ）とはなにか、がんになった場合にこれは可能であるのか考える。 →がんになってもQOLを高めることは可能であるのか考える。	・グループ活動での話し合いが、活発でないところに対して、刺激を与えに行く。	
	<p>がんになっても生活の質を高めることはできるのだろうか？</p>			
13分	3 外部講師のお話① 「がんの発覚と初期治療、家族の反応、治療の過程、大変だったこと」	→グループで考えを共有する。		
		・実際にがんに罹患された外部講師の方から、実際のお話を聞く。 →お話を聞いた率直な感想を記入する。 →用意していた質問に答えていただく。（その場での追加質問も）  ・外部講師のお話と質問への解答を聞いた感想を記入する。 →グループで共有する。 「引き出したい解答」 ・がんの治療は自分たちが思っているのよりも、つらく苦しくない場合もあるのかもしれない。	・chromebookを用いて、即時的に感想の共有をする。 ・生徒と外部講師のやりとりを大切に活動させる。 ・現場から生まれる質問などはアンテナを高くして多く拾わせる。	

5分	4 がんの治療法と緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主ながんの治療法について学ぶ。</li> <li>→がん治療の3つの柱とそれぞれの特徴について押さえる。</li> <li>・緩和ケアについて押さえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療法や緩和ケアについては、外部講師のお話に出てきたものから、学びにつなげたい。また補足説明等も入れてもらう。</li> </ul>	
12分	5 外部講師からのお話② 「現在の活動と、ご自身の生き方について」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に経験されてきた講師の方のご意見や考えを聞いて、質問などのやりとりや、話を聞いた率直な感想を共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・chromebookで即時的に記入し、各自の考えを全体で共有させる。</li> </ul>	
10分	6 本時のまとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんになっても生活の質を高めることはできるかできないかを選び、自分の考えを書く。</li> <li>・今後自分の考え方や行動に活かしたいことを踏まえて、本時の感想を記入する。</li> <li>・外部講師に本時のお礼をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の頭に考えたがんになってもPPKが可能かという問いに戻って、本時を経た自分の考えと比較させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんと向き合う人々と関わりを通じて、自他の健康の大切さに気づき自己の在り方や生き方を見つめ、自身の意見や考えを説明できる。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b>（記述・発表）</p>

(4) その他  
板書計画



外部講師の方は黒板に向かって左側に座っていただく。  
基本は自由に教室を移動してもらい、生徒たちと関わりをつくっていただく。